

〔一〕(評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 5点

(解答) 口

問二 5点

(解答) 口

問三 9点

(解答例)

A〇2点

B〇2点

毎日、人間が目の前にいないかのような仕事をしていて、気持ちが渴いているところに

C〇2点

D〇1点

E〇2点

声をかけてくれる客が現れ、 日常会話が飛び出し 気持ちの交わりが得られたから。 (75字)

(9点)

■各加点要素の加点の条件

A 「毎日、人間が目の前にいないかのような仕事をしていて」 (2点)

○ 「人間関係を作らなくても済む無色無味乾燥文化に慣れてしまった」「マニュアル通りの受け答えだけで人間関係をもたない」などでも可。

B 「気持ちが渴いているところに」 (2点)

△ 「無色無味無臭文化に慣れてしまっているところに」などは△1点。

C 「声をかけてくれる客が現れ」 (2点)

○ 「客から話しかけられ」などでも可。

D 「日常会話が飛び出し」 (1点)

○ 「(思いついたことを) 普通に話し」などでも可。

E 「気持ちの交わりが得られたから」 (2点)

○ 「気持ちの交流がもてたから」などでも可。

問四 5点

(解答) 生きがい

※**抜出問題のため、これ以外は不可**。

問五 2点×4＝8点

(解答) a 二 b イ c ホ d 口

問六 10点

(解答例)

A○2点

彼女の腕時計のオルゴールの音色が、彼女の面影と重なり合って、自分の中にくっきりと記憶化

B○2点

D○3点

されており、彼女にも自分との間にあつた心の交流を大事にしてほしいから。 (78字) (10点)

■各加点要素の加点の条件

A 「彼女の腕時計のオルゴールの音色が」 (2点)

○ 「彼女の腕時計のオルゴールの音色」だと全体から読み取れば、「彼女の腕時計の」はAに明示されていなくても可。

B 「彼女の面影と重なり合って」 (2点)

○ Aが「彼女の面影と重なり合って」いると読み取ればよい。

C 「自分の中にくっきりと記憶化されており」 (3点)

○ 「(AとBが)自分の中に記憶されている」という内容。

D 「彼女にも自分との間にあつた心の交流を大事にしてほしいから」 (3点)

○ 「心の交流」「気持ちの交流」等、「交流」が入っていれば可。

問七 4点×2＝8点

(解答) 二・一・八

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 2点×4＝8点

(解答) 1 狂騒 2 援用 3 相殺 4 弊害

問二 4点

(模範解答例)

物事を積極的によくしていこうとするさま。(4点)

■ 加点要素の加点の条件

○ 「積極的」「発展的」「前向き」「肯定的」に「進める」という説明であれば可。
△ ただし、それらの要素以外も加えている場合は、2点減点で△2点。

(例) 「理にかなった論理で」「良さを積み上げて」など。

問三 9点

(模範解答例)

A ○3点

競争が取り組みへのモチベーションを高め、

B ○3点

それによって成果も上がるといふことを 経験しているから。

C ○3点

(47字)

(9点)

■ 形式上の不備

- ・ 文末表現：要素C照／内容説明の結び「～こと」になっている場合は、要素C不可。
- ・ 句点の扱い：1点減点

■ 字数：五十字以内 二十四字以下のものは全体不可 (0点)

■ 各加点要素の加点の条件

A 「競争が取り組みへのモチベーションを高め」(3点)

※ 競争とモチベーションの関係について説明していないものは要素A加点なし ※ 0点。

B 「それによって成果も上がるということ」(3点)

※ 要素Aの結果、成果が上がるということを説明していないものは要素B加点なし ※ 0点。(↓Aが○でないとBは○にならない)

C 「経験しているから」(3点)

- ※要素A・Bの経験があるということを説明していないものは、要素C加点なし❌0点。
(↓AかBが○でないと、Cは○にならない)

問四 9点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

自他を比較する心理プロセスが引き起こされ 他者との相対的な優劣に関心が向けられ

C ○3点

その結果、自己価値が脅かされる心境に陥る可能性があるから。(69字) (9点)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可。
- ・句点の扱い：1点減点

■字数：七〇字以内 三四字以下のものは全体不可(0点)

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A 「自他を比較する心理プロセスが引き起こされ」(3点)

- ※自他の比較をする心理プロセスを引き起こすということことを説明していないものは要素A加点なし❌0点。

B 「他者との相対的な優劣に関心が向けられ」(3点)

- ※要素Aによって、他者との優劣に関心が向けられるということを説明していないものは要素B加点なし❌0点。

C 「その結果、自己価値が脅かされる心境に陥る可能性があるから」(3点)

- ※要素A・Bの結果、自己価値が脅かされるということについて説明をしていないものは要素C加点なし❌0点。

問五 7点

(解答) 口・二・ホ (完答のみ。順不同)

(模範解答例)

A ○3点

B ○2点

C ○2点

成果の卓越性を求めることよりも、

自尊心を優先して

勝つことを求めるということ。

(38字)

(7点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数：四〇字以内 一九字以下のものは全体不可(0点)

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A 「成果の卓越性を求めることよりも」(3点)

※要素Bとの関係で、「選ばない」ものが「成果の卓越性」であることを説明していないものは要素A加点なし※0点。

○「成果の卓越性」は「パフォーマンスの質・卓越性」でも可。

B 「自尊心を優先して」(2点)

※「選ぶ」ものが「自尊心」であることを説明していないものは要素B加点なし※0点。

C 「勝つことを求めるということ」(2点)

※要素Bが「勝つことを求める」ためのものであることを説明していないものは要素C加点なし※0点。

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

当人にとつての成長の機会であり、成果の卓越性も得られる競争。 (30字) (6点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数…三〇字以内 **一四字以下のものは全体不可(0点)**

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A 「当人にとつての成長の機会であり」(3点)

※傍線部「何のため」「誰のため」の答えとして、「当人にとつての成長のため」と説明していないものは要素A加点なし ×0点。

B 「成果の卓越性も得られる競争」(3点)

※要素Aと合わせて、「何のため」の答えとして、「成果の卓越性を得るため」と説明していないものは要素B加点なし ×0点。

三 (古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×3＝3点

(解答) 甲 まがき 乙 おぼ 丙 のうし (各1点)

※乙は「おも」は※

※丙は「なほし」(歴史的仮名遣い)は※。

問二 2点×4＝8点

(解答)

㉑ ニ ㉒ イ ㉓ ハ ㉔ へ (各2点)

問三 3点×3＝9点

(解答) X ニ Y イ Z ロ

問四 2点×3＝6点

(解答) ① 見せたい ② はっきりしていて ③ もっともだと

「ポイント」

① 「見せたい」(2点)

○ 「見せたいものだ」でもよい。

△ 「見せたいなあ・見せたいことよ」など詠嘆がついている、「見せたかった」など過去・完了がついている、のように余計な表現がついている場合は△1点。

② 「はっきりしていて」(2点)

○ 「はっきりと見えて・はっきりと分かって・はっきりして・はっきりとして・明らかで」などでもよい。

△ 「はっきり・明らかに」など、「て・で」がない場合は△1点。

※ 「まぶしくて・明るくて」などは※。

③ 「もっともだと」(2点)

○ 道理だと・道理に・当然だと・当然のことに・もちろんだと」などでもよい。

△ 「もっとも・当然・道理である」など、語尾が「思ひて」につながる場合は△1点。

※ 「礼儀だと・お断りだと」などは※。

(1) (解答例) 2点

尋ねるだろうになあ

【ポイント】

- 「尋ねる (問う・聞く) + 推量 (〓だろう) + 「のに」の意があればよい。
- ✖ 「尋ねる (問う・聞く)」の意がない場合は✖。
- 推量は希望 (〓〓したい・〓〓したかった) でもよしとする。
- ✖ 「〓してほしい」は✖。
- ▲ 「尋ねるのに」のように推量・希望がない場合は、マイナス1点。
- ▲ 「尋ねるだろう・尋ねたい」のように逆接 (〓〓のに・〓が) の意がない場合は、マイナス1点。
- 「尋ねるだろうになあ」のような詠嘆 (〓〓なあ・〓ことよ) の有無は不問。

(2) (解答) 2点×2＝4点

(解答)

i 無き (2点)

- △ 「無」は1点。
- ✖ 「なき・なきや・無きや・無き」などは✖。

ii 待つ (2点)

- △ 「待」は1点。
- ✖ 「まつ」は✖。

B (4点)

(解答例)

A〇2点

B〇2点

姫君に会うことができないなら、死んでしまおうという心情。 (28字) (4点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定 30字。字数が少ないことによる減点はしない。
- ・ 文末表現 要素Bに準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「姫君に会うことができないなら」 (2点)

- 「姫君に会えないなら」の意があればよい。
- 「愛する・恋しい」「探して」などの有無は不問。

B 「死んでしまおうという心情」 (2点)

- 「死のう・死にたい・死んでしまいそうな・生きてはいられない・生きていてもしかたない・この世から消えてしまいたい」などの意があればよい。
- ▲ 文末が「心情・気持ち」などでない場合は、マイナス1点。
- 「恋慕の」などの有無は不問。

E (4点)

(解答例)

A〇2点

B〇2点

お告げどおり姫君がいたので、仏の靈験をありがたく思う心情。 (28字) (4点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定 30字。字数が少ないことによる減点はしない。
- ・ 文末表現 要素Bに準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「お告げどおり姫君がいたので」 (2点)

- × 「姫君がいた・姫君に会えた・姫君に再会した・姫君の声を聞いた・姫君の居場所が分かった」などの意がない場合は×。
- ▲ 「お告げどおり」の意がない場合は▲マイナス1点。

B 「仏の靈験をありがたく思う心情」(2点)

✕ 「ありがたく思う・感謝する・畏れ多く思う」など、または「嬉しく思う・興奮する・胸が高ぶる・安堵する」など意がない場合は✕。

○ 「仏の」の有無は不問。

▲ 「靈験を・ご利益を・加護を・祈りの効き目を」などの意がない場合は、▲マイナス1点。

▲ 文末が「心情・気持ち」など、または「感謝・畏怖・喜び・興奮・安堵」など、心情を表す語でない場合は、▲マイナス1点。

問七 4点×2＝8点

C (4点)

(解答例)

A ○1点 B ○3点

まさか 人が弾いているのではないだろう (4点)

■ 表記・字数

・ 字数指定なし。

・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。

・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「まさか」(1点)

○ 「まさか」は「よもや・決して・絶対に」などでもよい。

B 「人が弾いていのではないだろう」(3点)

○ 「(琴を) 弾くのが人ではない」の意があればよい。

△ 「(琴を) 弾く」の意がなく、「人のしわざではない・人のすることではない」の意がある場合は、△2点。

○ 「ないだろう」は、「あるまい・あるはずがない」「ない・思えない」など打消表現であればよい。

✕ 打消表現が全くない場合は、要素Bは✕。

F (4点)

(解答例)

A〇2点

少将が来たことを

B〇2点

相談すると (4点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定なし。
- ・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「少将が来たことを」(2点)

- 「少将が来たこと」、もしくは「少将が姫君に逢いたがっていること」の意があればよい。
- ✖ 「少将が」がない場合は×。
- 「少将が来たこと」となっている場合は、「姫君を探しに・はるばると」などは不問。
- △ 「少将が逢いたがっていること」となっている場合は、「姫君に」がない場合は△1点。
- 「～ことを」は「～と」でもよい。

B 「相談すると」(2点)

- △ 「相談」の意がなく、「言う・報告する・伝える」などの意がある場合は△1点。
- ✖ 「口裏を合わせると」などは✖。
- ▲ 文末が「～(する)と・～(した)ところ・～ので・～から」でない場合は▲マイナス1点。

問八 1点×2＝2点

(解答) 口・二 (順不同)

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

(解答) a かつ(て) b まさ(に)

c つい(に) d あやま(ちを)

「採点のポイント」

▲歴史的仮名遣いの場合には、▲減点1点。

例 c 「つひに」

問二 3点×2＝6点

(解答例) ① 性格 ② できない

「採点のポイント」

① 「人柄」「性質」も可。

問三 6点

A○2点

B○2点

C○2点

(解答例) よほどひどい困難に 遭遇しなければ 技をださなかつた。(6点)

「採点のポイント」

○A 「困難」は「苦しみ」「困った事態・状況」「窮地」など可。

▲「ひどい」「甚だしい」「特別な」など程度の表現がないと▲減点1点。

○C 「技」は「内家拳」「秘伝の拳法」「力」「能力」など可。

問四 5点

A○1点

B○2点

C○2点

(解答例) しゆゝいひの じゆゝいひの となり (5点)

「採点のポイント」

×A 現代仮名遣いでなく「しゆ」または「しゆ」とするもの、0点。

×B 「うる」を「える」とするもの0点。

×C 「なり」を「なし」「なす」などとするもの0点。

× 「になり」は0点。

問五 5点

(解答) 無二不_レ受_レ傷者_一

「採点のポイント」

※送り仮名やその他(不要な記号や数字)を書いたものは0点。

問六 7点

A〇3点

B〇1点

(解答例)

征南に刀を突きつけた兵士たちが、征南の拳法によって

C〇1点

D〇2点

自ら倒れるように 地面にたたきつけられたこと。(7点)

「採点のポイント」

○A 「征南に刀を突きつけた」は「征南を襲った」なども可。

△この表現がないものは△1点。

○B 「兵法」は「兵」「官兵」「营兵」なども可。

○D 「やられた」「返り討ちにされた」など抽象的な表現は△1点。

△「刀を落とした」にも1点。

○「倒されて刀を落とした」は可。

○

問七 5点

(解答例)

征南を侮辱した若者 (5点)

「採点のポイント」

△「悪い若者」だけの場合は△2点。

▲侮辱した(侮る)対象を「内家拳」「ツボ」にする場合▲減点1点。

○「侮辱した」「侮った」「馬鹿にした」など可。

A〇2点
B〇2点
(解答例) 牧童のついたツボは 「死穴」ではなく「暈穴」だったので

C〇2点
D〇2点
同僚の者は気絶しているだけで死んではおらず しばらくすると蘇ったという(こと)。(8点)

「採点のポイント」

○B 「死穴」ではなく「暈穴」はなくても可。

「暈穴」は、注をつかい「目まいがして気絶するツボ」も可。

○C 「死んではおらず」は、なくとも可。

○D 「甦った」は、「意識が戻った」「目を覚ました」など可。

△「生き返った」は1点。(↑死んだのではないから)